

中期目標の達成状況に関する評価結果

(中期目標期間終了時評価)

鹿児島大学

令和5年3月

大学改革支援・学位授与機構

目 次

法人の特徴	1
-------	---

(法人の達成状況報告書から転載)

評価結果

《概要》	6
------	---

《本文》	7
------	---

《判定結果一覧表》	23
-----------	----

—《本文》における特記事項の冒頭「○」「●」について—

○：第3期中期目標期間4年目終了時評価において抽出されている特記事項※

●：第3期中期目標期間終了時評価において、4年目終了時評価結果を変えうるような顕著な変化として、追加で抽出されている特記事項

※ 新型コロナウイルス感染症下における対応については、4年目終了時評価結果を変えうるような顕著な変化の有無にかかわらず、令和2、3年度における取組や実績等を更新している。

法人の特徴

大学の基本的な目標（中期目標前文）

鹿児島大学は、学問の自由と多様性を堅持しつつ、自主自律と進取の精神を尊重し、アジア・太平洋の中の鹿児島という地理的特性を踏まえ、地域とともに社会の発展に貢献する知の拠点として、「進取の気風にあふれる総合大学」を目指しています。

第3期中期目標・中期計画期間においては、南九州及び南西諸島域の「地域活性化の中核的拠点」としての機能を強化し、自ら困難な課題に果敢に挑戦する「進取の精神」を有する人材を育成するとともに、18歳人口減少問題やグローバル化を視野に入れ、「進取の気風にあふれる総合大学」に相応しい大学改革を実施するため、以下の基本目標に取り組みます。

1. グローバルな視点を有する地域人材育成の強化
地域特性を活かした教育及び国際化に対応した教育を推進するとともに、高大接続の見直し、アクティブ・ラーニングの強化、教育の内部質保証システムの整備、学生支援の拡充等の教育改革に取り組みます。
2. 大学の強みと特色を活かした学術研究の推進
地域特有の課題研究「島嶼、環境、食と健康、水、エネルギー」及び防災研究を推進するとともに、先進的な感染制御や実験動物モデル等の卓越した研究を促進します。
3. 地域ニーズに応じた社会人教育や地域連携の推進
知的・文化的な生涯学習の拠点として、地域・産業界との連携を強化し、リカレント教育の拡充や地域イノベーションの創出等、「社会連携機構（仮称）」を中心に社会貢献の取組を推進します。
4. 機能強化に向けた教育研究組織体制の整備
学長のリーダーシップの下、大学のガバナンス改革を推進するとともに、学術研究院制度を効果的に活用し、地域の総合大学としての特色を活かした学部等の再編や奄美群島拠点の拡充等、組織の見直しや学内資源の再配分に全学的な観点から取り組みます。

[個性の伸長に向けた取組（★）]

○ グローバル教育の推進

1. 一般入試等への外部英語試験については全募集人員の95%が活用しており、ほぼ目標を達成できた。国際バカロレア入試による入学者は、バカロレア選抜に特化したオンライン入試説明会、秋のオープンキャンパスにおけるバカロレア生対象プログラム、受験直前のオンライン個別相談会など新たな広報事業を実施した結果、目標値 10 名を大幅に上回る 16 名の入学者を獲得できた。
2. グローバルセンター設置による全学的国際連携機能の強化は「大学の世界展開力強化事業」採択（JSPS）やダブルディグリーの開発に繋がった。また外国語や異文化に高い関心を持つ学生を対象とした授業外学修の場「外国語サロン（Language Out Loud; LOL）」を2017年度に開設し、異文化理解と外国語運用能力を継続的に向上させる機会の保証ができた。さらに、外国人留学生の多様なニーズに応える教育カリキュラム等を拡充するなど、受入支援体制を充実した。以上の一連の取組により、2019年度は対2014年度（基準値）比で、新型コロナウイルス感染世界的蔓延の影響で38名が派遣中止となる中、海外派遣学生数が1.3倍、外国人留学生数が1.3倍に達し、それぞれで中期計画【B-33】と【B-34】を達成した。続く2カ年は、コロナ禍での政策により海外派遣が困難な状況になったが、この間も、オンライン国際協働学習（COIL）をはじめオンラインによる多様な教育を展開、定着させ、国際教育を推進している。
(関連する中期計画 1-4-2-1、4-1-1-1、4-1-1-3、4-1-1-4)

○ 大学の強み・特色を活かした学術研究の推進

1. 地域社会の課題解決に繋がる大学の特色を活かした学術研究としては、島嶼、環境、食と健康、水、エネルギーの5分野を中心に、多くの研究成果を論文発表するとともに、得られた成果や開発した技術等の地域社会・国際社会への実装化を行った。また「南九州・南西諸島域の地域課題に応える研究成果の展開とそれを活用した社会実装による地方創成推進事業」は、その評価指標を、2021年度に共同・受託研究契約数が156件（第2期の平均値78件の2倍）に達することとしていたが、2018年には152件に達し、2019年度には目標値を越える192件となり、その後も2020年（193件）、2021年（222件）と着実に伸ばしている。
2. 国際水準の卓越した研究としては、以下の諸研究が、国内外で注目される高度な研究成果を発信している。
 - A. ヒトレトロウイルス学共同研究センターでは、鹿児島キャンパスにトランスレーショナルリサーチ部門を新設し、2名の教員を採用して大学発シーズの企業への橋渡しを行った。また、2020年より新型コロナウイルスに対する新規治療法の開発を開始し、3種類の化合物の抗ウイルス効果を同定することに成功し、3件の特許申請を行った。
 - B. 人畜共通感染症の研究においては、共同獣医学部附属越境性動物疾病（TAD）制御研究センター教員の研究成果は、Nature誌をはじめとする高いインパクトファクター（IF）の国際誌に報告しており、IF総計は100を超え、国際的に評価されている。外部資金は2020年度に科学研究費助成事業基盤研究（B）1件、同（C）2件、AMED、JRA等から獲得し総額は約1億円であった。2021年度は、科学研究費助成事業基盤研究（B）3件を含む同額を獲得した。
 - C. 天の川銀河研究では、卓越研究員が条件を大きく上回る成果を上げており、テニユアを付与することに加え、研究准教授とすることが認められた。研究成果に関しては211編の査読付き英語論文がIF5以上の国際誌に掲載され、うち1編はNature（IF=50）に掲載された。
 - D. 難治性がん治療研究については、Surv. m-CRA-1の骨軟部腫瘍への承認を目指した骨腫瘍への第Ⅱ相試験を開始し、2021～2023年度AMED革新がん事業に高い審査員評価で新規採択された。Surv. m-CRA-1の腭癌に対する治験もAMED橋渡しシーズC事業採択され、さらにSurv. m-CRA-2を超える新シーズが基盤研究（B）や萌芽研究など複数の科研費に代表で採択されるなど、着実な成果が上がっている。これらの研究の一部は地方並びに全国向けのテレビや新聞で報道され、社会的、科学的に高い成果をあげている。
(関連する中期計画 2-1-1-1、2-1-2-1)

○ 欧州獣医学認証取得

1. 共同獣医学課程では、欧州獣医学教育機関協会（European Association of Establishments for Veterinary Education: EAEVE）による2017年の公式事前診断による指摘事項を改善した結果、当初計画（2020年度）から1年前倒しで公式最終審査を受審し、2019年の欧州獣医学教育委員会において、アジアの大学で初めて完全認証を取得した。本認証取得は、本学の共同獣医教育課程が、欧米の先進的な獣医学教育機関が求める『全ての動物種と全ての獣医業務に関する教育が全ての学生に対して齊一に行われる教育課程であること』を意味している。
2. EAEVEによる認証取得後の中間評価（2022年度予定）に向けて、EAEVE公式 Full Visitationの指摘事項に対応し、ウマの診療頭数を増加させた。伴侶動物についてはコロナ禍の影響で夜間診療が減少したため2019～2021年度は前年度を下回った。一方でEAEVEによる中間評価に向けては、鹿児島大と山口大とでの協議を進めており、さらには4大学（帯広畜産大、北海道大、山口大、鹿児島大）による共同教育課程の連携体制を維持しつつ、我が国の獣医学教育の欧米水準化の牽引役を担っている。

3. 大隅産業動物診療研修センターにおける診療頭数は牛診療を主体に急増している。また、2020年6月に「曾於市と国立大学法人鹿児島大学との南九州畜産獣医学拠点整備における連携協力に関する覚書」を締結し、2021年1月には曾於市から内閣府「令和3年度補正分地方創成拠点整備交付金」事業に申請し採択された。一方で、本拠点の整備に合わせて、農学部農業生産学科畜産科学コースと共同獣医学部獣医学科による組織再編による4年制の新学科構想を検討している。
(関連する中期計画 1-2-1-4)

○ 地域を志向した教育・研究の推進

「南九州・南西諸島域共創機構」を中心に、全学として地域の防災、医療、観光、エネルギー、農林畜産業、水産業等の課題解決を図り、その活動成果を本学の教育に活かすとともに、自治体・企業との交流や共同・受託研究等を通じて地域社会に還元した。

A. 2016～2021年度の「鹿児島大学認定コーディネーター」経路による大学への技術課題の橋渡し案件の実績は計75社99件あり、うち5件と共同研究契約を締結した。

B. 2018年度から専任教員3名を新たに配置し地域課題に関するヒアリングを積極的に展開し、地域課題の収集及び潜在的な地域技術シーズを発掘した。その結果、地方自治体、地域団体、企業等との共同研究・受託研究のコーディネート件数は、2018年度は32件、2019年度は69件であったが、新型コロナウイルスの影響もあり2020年度は52件、2021年度は31件となった。

C. 「かごしまキャリア教育プログラム」の開発・提供、社会人向け履修教育プログラム、鹿児島環境学の研究成果、あるいは奄美群島拠点の活用などが評価され、国公私立大学を対象に実施された「大学の地域貢献度調査」では、2017年度全国748校中3位、2019年度全国755校中10位、2021年度全国761校中7位と3回連続でベスト10位にランクインした。

D. 産学・地域共創センターを中核として南九州・南西諸島域に眠る地域課題の発掘とテーマ化を行った。この中から、鹿児島の特産品である桜島大根やリュウキュウイノシシ肉の機能性研究が新たな産業に発展し、地域資源と学術研究の融合による地域イノベーションを進めた。

E. 「アグリビジネス創出フェア（東京ビッグサイト）」において、放牧牛、リュウキュウイノシシ、黒豚、深海魚、桑の葉、桜島大根など、本学で研究・開発が進められている商品をPRした。

F. 徳之島3町との間に、それぞれの資源や機能の活用を図りながらより幅広い分野で相互に連携協力して地域社会の活性化に寄与することを目的として、2020年度に包括連携協定を締結した。これにより、これまでの農業・水産業・畜産業を中心にした3町との多様な連携協力体制の強化が図られた。

G. 奄美群島を拠点とした各種セミナーを、新型コロナウイルス感染症対策として、遠隔と対面のハイブリットで実施したところ、奄美群島だけでなく全国からの参加者が増え、群島の魅力や現状を全国に発信することができた。さらに2020年からは、群島の全ての島を対象にした「島めぐり講演会」を開催し、高い評価を得ている。これらの活動に対し、2021年10月に、奄美市と奄美群島広域事務組合から、本活動への感謝状ならびに継続への要望があった。

(関連する中期計画 3-1-1-1、3-1-1-2)

○ 教育関係共同利用拠点

1. 附属練習船かごしま丸では、海洋ごみ問題など社会情勢の変化に対応しつつ実習教育内容の多様化・高度化を進め、質の高い洋上実習を利用大学に提供した。2019年に実施した利用大学へのアンケートでは、かごしま丸が提供する実習に満足している旨の回答が多く寄せられており、受験生向けパンフレットや学部・学科のホームページ等では、かごしま丸共同利用乗船実習が、特色ある教育の1つとして情報発信されて

おり、本学の乗船実習に対する満足度が見て取れる。2020年度と2021年度の利用実績は、コロナ禍前と比べてやや低下したが、毎年度の利用申込み機関数に変化は無く、共同利用の規模はコロナ禍前と同レベルを維持している。利用大学の引率教員からは、アンケートを通して、対面での講義や実習が困難な状況下でも、十分な感染防止対策の下で貴重な実地教育の機会となったとの感想が寄せられており、引き続き、かごしま丸が提供する教育への満足度の高さが見てとれる。

2. 高隈演習林では、教育関係共同利用拠点第1期において、利用者数はいずれの年度も計画を上回り、期間の延べ数は3,011名に達した。また、他大学の利用率を25%以上とする目標は2016年度に達成し、その後の利用率は目標値50%以上の水準を維持できた。第2期の2019年末には、新型コロナウイルスの感染拡大が起こり、県外の大学等からの受入れが困難な状況となったが、大学の方針に準じた各種感染拡大防止対策を講じつつ可能な限りの受入れを行った。その結果、新たな評価指数のうち、毎年550名以上の受入れは目標を下回った(2019年度505名、2020年度213名、2021年度274名)ものの、文系分野の利用率は目標(20%以上)を大きく上回る結果となった(2019年度48.7%、2020年度51.0%、2021年度62.4%)。さらに「緑の循環認証会議(SGEC)」森林認証(国際相互認証)取得に向け、2021年9月から申請準備に取りかかり、2022年4月に森林認証を受けた(有効期間5年間)。国内の大学演習林がSGEC森林認証を取得するのは4例目である。

(関連する中期計画 1-2-1-5)

[戦略性が高く意欲的な目標・計画(◆)]

○ 大学教育改革

学長のリーダーシップに基づく戦略的な資源の再配分により、共通教育については、教育センターの組織改革と高い教育能力を持った教員の集約を同時に進め、共通教育の安定的運営と質保証を可能にするとともに、着実に学習成果を挙げるために科目の精選と担当教員の資質向上に取り組み、学士課程教育全体の質的向上を図る。この共通教育改革とも連動して、法文学部については、地域の中核的人材養成やグローバル化に対応する、人文社会系学部へ再編する。教育学部については、学校教育教員養成課程の改組を行うとともに、教育学研究科の中に教職大学院を設置し、鹿児島県の教育に資する若手・中堅のスクールリーダーの養成を行う。

(関連する中期計画 1-2-1-1)

○ グローバル教育の推進

グローバルに活躍できる人材を着実に育成するため、国際バカロレア入試の拡充や、一般入試等への外部英語試験の全学的導入を推進するとともに、外国語活用能力や異文化理解度の向上に高い関心を持つ学生を支援する拠点として「外国語サロン(Language Out Loud; LOL)」を開設する。また、全学生にグローバル人材の意味と必要性を説き、入学時から卒業までの段階的なグローバル人材教育機会を可視化し、意欲的な学生の能力を継続的に最大限に伸ばす仕組みを構築するとともに、留学生の多様なニーズに応える教育カリキュラム等を拡充するなど、外国人留学生の受入支援体制を充実し、グローバル教育の取組を推進する。

(関連する中期計画 1-4-2-1、4-1-1-1、4-1-1-3、4-1-1-4)

○ 地域人材育成及び地域連携の推進

地域活性化の中核的拠点として、地域課題解決に資する汎用的能力育成及びその成果の可視化を進め、地域人材育成に寄与することを目指し、それらを起点として大学全体の内部質保証制度の整備を行う。また、学卒者の地元定着に向けた取組を行い、インターンシップ等の充実により地元就職を支援するとともに、鹿児島県、地域産業界、金融機関等と協働した新規雇用の創出と雇用の拡大に取り組む。

(関連する中期計画 1-1-2-1、1-3-2-1、3-1-1-1)

- 大学の強み・特色を活かした学術研究の推進
地域社会の課題解決に繋がる島嶼等の大学の特色を活かした学術研究を推進するとともに国際水準の卓越した研究として、先進的感染制御等の大学の強みを活かした研究を推進する。
(関連する中期計画 2-1-1-1、2-1-2-1)

- 欧州獣医学認証取得
2016 年度中に教育施設の整備とカリキュラムの改編を終え、2017 年度に公式事前診断に基づく欧州獣医学教育施設協会 (European Association of Establishments for Veterinary Education: EA EVE) 公式メンバーシップの取得、2019 年度までに自己評価報告書を作成し、2020 年度の認証評価を取得する。さらに、自治体、NOSAI、JA 県連等との更なる連携深化によって、畜産地・食糧基地としての地域機能の振興に国際的な視野をもって活躍できる人材を養成する教育組織へと発展させる。
(関連する中期計画 1-2-1-4)

評価結果

《概要》

第3期中期目標期間の教育研究の状況について、法人の特徴等を踏まえ評価を行った結果、鹿児島大学の中期目標（大項目、中項目及び小項目）の達成状況の概要は、以下のとおりである。

＜判定結果の概要＞

中期目標（大項目）	判定	中期目標（小項目）判定の分布				
		【5】 特筆すべき実績を上げている	【4】 優れた実績を上げている	【3】 達成している	【2】 十分に達成しているとはいえない	【1】 達成していない
I 教育に関する目標	【3】 達成している					
1 教育内容及び教育の成果等に関する目標	【3】 達成している			3		
2 教育の実施体制等に関する目標	【4】 上回る成果が得られている		1			
3 学生への支援に関する目標	【3】 達成している			2		
4 入学者選抜に関する目標	【2】 おおむね達成している			1	1	
II 研究に関する目標	【3】 達成している					
1 研究水準及び研究の成果等に関する目標	【4】 上回る成果が得られている		2	1		
2 研究実施体制等に関する目標	【3】 達成している			1		
III 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標	【3】 達成している					
	なし			2		
IV その他の目標	【3】 達成している					
1 グローバル化に関する目標	【3】 達成している			1		

※ 大項目「I 教育に関する目標」及び「II 研究に関する目標」においては、4年目終了時に実施した学部・研究科等の現況分析結果による加算・減算を反映している。

《本文》

I 教育に関する目標（大項目1）

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標を達成している

(判断理由) 「教育に関する目標」に係る中期目標（中項目）4項目のうち、1項目が「中期目標を上回る成果が得られている」、2項目が「中期目標を達成している」、1項目が「中期目標をおおむね達成している」であり、これらの結果に学部・研究科等の現況分析結果（教育）を加算・減算して総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

(1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標（中項目1-1）

【評価結果】 中期目標を達成している

(判断理由) 「教育内容及び教育の成果等に関する目標」に係る中期目標（小項目）3項目のうち、3項目が「中期目標を達成している」であり、これらを総合的に判断した。

小項目 1-1-1	判定		判断理由
【A 1】「進取の精神」を發揮して課題の解決に取り組むことのできる多様な人材を育成する。	【3】	中期目標を達成している	・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。
	《特記事項》		
	(特色ある点) ○ アクティブ・ラーニングの推進 アクティブ・ラーニング型授業を、全学必修科目をはじめ初年次配当科目から拡充し、その割合を50%まで拡充する目標に対し、令和元年度は63.2%を達成している。大学IRコンソーシアム・アンケートの結果によれば、アクティブ・ラーニング型授業の拡充により、特に1年次の文章表現力とプレゼンテーション能力が伸長している。(中期計画1-1-1-1) ○ 熱帯水産学国際連携プログラムの実施 熱帯水産学国際連携プログラムでは、日本人学生の海外派		

	遣に加え、留学生を受け入れることにより、海外に行かずして国際的な環境で学生生活を送れるようにしている。また、これらの留学生は、受入教員の下でミニ研究プロジェクトを行うことで各研究室の一員として活動することから、プログラム登録学生にとどまらず研究室に所属する学部生・院生との交流を深めている。(中期計画 1-1-1-3)	
小項目 1-1-2	判定	判断理由
【A 2】地(知)の拠点として、地域課題の解決に取り組むことのできる人材を育成する。	【3】	中期目標を達成している ・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。
	《特記事項》	
	(特色ある点) ○ 地域志向教育の推進 地域就業を目指した人材育成を行うかごしまキャリア教育プログラムに加え、地域に対するより深い理解に基づき地域に貢献する人材を育成するかごしま地域リサーチ・プログラム、グローバルな視点から地域課題の解決に貢献する人材育成を目的としたかごしまグローバル教育プログラムの整備を進めている。地域人材育成プラットフォームの年間受講者数は令和元年度までに150名以上に達している。(中期計画 1-1-2-1)	
小項目 1-1-3	判定	判断理由
【A 3】教育目標の達成に向け、体系的カリキュラムを整備するとともに、学修成果を可視化し、教育内容・方法の改善サイクルを確立し、全学的な教育の内部質保証システムを整備する。	【3】	中期目標を達成している ・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。
	《特記事項》	
	(特色ある点) ○ 初年次セミナーと「大学と地域」の開講 共通教育において全学必修科目「初年次セミナー」及び「大学と地域」を開講し、それぞれにおいて育成すべき能力を明確に定めると同時に、その質を保証するための授業運営マニュアルや成績評価基準(ルーブリック)の目安を整備している。(中期計画 1-1-3-1)	

	<p>○ 授業配信システムを用いた遠隔出前授業</p> <p>離島出身者の円滑な高大接続を支援するため、令和元年度より県内離島にある高校への授業配信システムを用いた遠隔出前授業を計 17 回実施し、各回で平均 28.8 名の高校生が参加している。(中期計画 1-1-3-2)</p>
--	---

(2) 教育の実施体制等に関する目標 (中項目 1-2)

<p>【評価結果】 中期目標を上回る成果が得られている</p> <p>(判断理由) 「教育の実施体制等に関する目標」に係る中期目標 (小項目) が 1 項目であり、当該小項目が「中期目標を達成し、優れた実績を上げている」であることから、これらを総合的に判断した。</p>
--

小項目 1-2-1	判定	判断理由	
<p>【A 4】 学術研究院制度や国際認証制度等を活用し、教育の質の向上を図る教育研究体制を整備する。</p>	<p>【4】 中期目標を達成し、優れた実績を上げている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。 ・ また、特記事項を判断要素とし、総合的に判断した結果、「欧州獣医学教育国際認証の取得」が優れた点として認められるなど「優れた実績」が認められる。 	
		<p>《特記事項》</p>	
		<p>(優れた点)</p> <p>○ 欧州獣医学教育国際認証の取得</p> <p>令和元年度に共同獣医学部が欧州獣医学教育国際認証 (EAEVE) をアジアで初めて取得し、欧米主導で進む獣医学教育の国際化の流れのなかで、アジア地域における今後の獣医学教育の発展及び獣医師養成に大きく貢献できる環境を整備している。(中期計画 1-2-1-4)</p> <p>(特色ある点)</p> <p>○ 附属練習船の共同利用の拡大</p> <p>附属練習船かごしま丸は、共同利用日数が平成 30 年度には 63 日 (運航日数比 39%)、令和元年度には 72 日 (同 42%) となっている。令和元年度は国内 14 大学 (早稲田大</p>	

	<p>学、日本大学、放送大学、九州大学等)の利用による8回の共同利用航海に加えて、大学院熱帯水産学国際連携履修プログラム(ILP)を構成するフィリピン大学やタイ国カセサート大学等、ASEAN 諸国5大学による共同利用を実施している。(中期計画1-2-1-5)</p> <p>○ 新型コロナウイルス感染症下の教育</p> <p>新型コロナウイルス感染症による影響下においても学生の学習機会を確保するため、例えば、保健学科4年生の「チーム医療実習」では、離島住民のバーチャル家庭訪問を教材としたヘルスアセスメント教育をオンラインで実施している。また、令和2年6月上旬に1年生のみを対象として、前期末には全ての学部学生及び大学院生を対象としたアンケートを実施し、特に1年生に対しては、アンケート結果を踏まえたQ&A等を含むリーフレットを作成し、配布している。</p> <p>● SGEC 森林認証の取得</p> <p>高隅演習林ではSGEC 森林認証(国際相互認証)取得に向け、令和3年9月から申請準備に取りかかり、「緑の循環認証会議(SGEC)」から持続可能な森林管理の国際基準を満たしたとして、令和4年4月1日に向けた森林認証を受けている。国内の大学演習林がSGEC 森林認証を取得するのは本件が4例目である。(中期計画1-2-1-5)</p>
--	---

(3) 学生への支援に関する目標(中項目1-3)

<p>【評価結果】 中期目標を達成している</p> <p>(判断理由)「学生への支援に関する目標」に係る中期目標(小項目)2項目のうち、2項目が「中期目標を達成している」であり、これらを総合的に判断した。</p>

小項目1-3-1	判定	判断理由
【A5】「進取の精神」を育むために学生支援を充実するとともに、多様な学生の状況に対応した総合的な支援体制を整備する。	【3】	中期目標を達成している
	《特記事項》	
	(特色ある点)	
	○ ボランティアへの支援の拡充 ボランティア支援センターや学生が中心になり、ホームペ	

	<p>ージの充実、ボランティア団体の紹介会や交流会、広報誌等の周知活動を実施し、ボランティア登録者が1,000名を超えている。具体的な活動として、学内では、自転車防犯活動、「緑のカーテン」の設置、ペットボトルキャップ回収、古本回収、留学生サポート活動等を行い、学外では、南アフリカの伝統楽器「ジャンベ」を使った福祉施設や幼稚園の巡回演奏、福祉施設の子どもたちへの学習支援活動、犬猫の殺処分を減らす動物愛護活動、フィリピンのミンダナオ島に対するエコバッグ支援プロジェクト活動、災害ボランティア等を行っている。(中期計画 1-3-1-4)</p>					
小項目 1-3-2	<table border="1"> <thead> <tr> <th>判定</th> <th>判断理由</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>【3】 中期目標を達成している</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。 </td> </tr> </tbody> </table>		判定	判断理由	【3】 中期目標を達成している	<ul style="list-style-type: none"> 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。
判定	判断理由					
【3】 中期目標を達成している	<ul style="list-style-type: none"> 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。 					
【A 6】 学生の多様なキャリア選択のための支援を推進する。	<p>《特記事項》</p> <p>(特色ある点)</p> <p>● 課題解決型インターンシップの推進</p> <p>キャリア形成支援センターは、県内企業・団体と連携し、全学年の学生対象の「課題解決型インターンシップ」を実施しており、学生を長期的に手厚くサポートしている点が評価され、「第4回学生が選ぶインターンシップアワード2021 (同実行委員会主催、経済産業省・文部科学省・マイナビ等後援)」において文部科学大臣賞を受賞している。令和2年度の参加人数は20名、令和3年度は51名と、参加学生数も増加している。(中期計画 1-3-2-1)</p>					

(4) 入学者選抜に関する目標 (中項目 1-4)

【評価結果】 中期目標をおおむね達成している

(判断理由) 「入学者選抜に関する目標」に係る中期目標 (小項目) 2項目のうち、1項目が「中期目標を達成している」、1項目が「中期目標を十分に達成しているとはいえない」であり、これらを総合的に判断した。

小項目 1-4-1	判定		判断理由
<p>【A 7】中央教育審議会「高大接続答申」(平成 26 年 12 月 22 日)で指摘されている学力の 3 要素 (①知識・技能、②思考力・判断力・表現力、③主体性・多様性・協働性)等を踏まえて、現在のアドミッション・ポリシーをさらに明確化し、能力・意欲・適性を多面的・総合的に評価する入学者選抜を実施する。</p>	【2】	中期目標を十分に達成しているとはいえない	<ul style="list-style-type: none"> 中期計画の判定において「中期計画を十分に実施しているとはいえない」がある。 また、「離島地域の志願者数の状況」に改善を要する点が指摘されたため、小項目を十分に達成しているとはいえない。
		<p>《特記事項》</p> <p>(改善を要する点)</p> <p>○ 離島地域の志願者数の状況</p> <p>奄美群島・種子島・屋久島等の離島地域の志願者数について、平成 27 年度の 1.3 倍に拡充するという目標に対して、平成 28 年度 0.80 倍、平成 29 年度 0.67 倍、平成 30 年度 0.95 倍、令和元年度 0.79 倍、令和 2 年度 0.69 倍、令和 3 年度 1.02 倍となっており、離島地域の志願者数を増やす取組は実施されているものの、目標に及ばない。(中期計画 1-4-1-2)</p>	
小項目 1-4-2	判定		判断理由
<p>【A 8】グローバル人材育成と多様な人材の確保に対応した入学者選抜を実施する。</p>	【3】	中期目標を達成している	<ul style="list-style-type: none"> 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。
		<p>《特記事項》</p> <p>(特色ある点)</p> <p>○ 国際バカロレア入試の導入</p> <p>グローバルな人材の育成に向けて、国際バカロレア入試を平成 28 年度入試より導入し、平成 29 年度入試から九州地区では初めて全学部で実施している。導入後は、国際バカロレ</p>	

	<p>ア認定校への広報活動や文科省の IB コンソーシアムでの活動等、受講者の増加に向けた取組を実施している。(中期計画 1-4-2-1)</p> <p>○ 外部英語試験の導入</p> <p>英語 4 技能を高いレベルで修得している人材を受け入れるべく、平成 29 年度入試より全学部で外部英語試験の導入を国立総合大学では初めて実施し、その利用者数は過去 3 年で平成 29 年度入試 51 名から令和元年度入試 282 名に増加している。(中期計画 1-4-2-1)</p>
--	--

Ⅱ 研究に関する目標（大項目2）

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標を達成している

（判断理由）「研究に関する目標」に係る中期目標（中項目）2項目のうち、1項目が「中期目標を上回る成果が得られている」、1項目が「中期目標を達成している」であり、これらの結果に学部・研究科等の現況分析結果（研究）を加算・減算して総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

（1）研究水準及び研究の成果等に関する目標（中項目2-1）

【評価結果】 中期目標を上回る成果が得られている

（判断理由）「研究水準及び研究の成果等に関する目標」に係る中期目標（小項目）3項目のうち、2項目が「中期目標を達成し、優れた実績を上げている」、1項目が「中期目標を達成している」であり、これらを総合的に判断した。

小項目 2-1-1	判定		判断理由
【A 9】 地域特有の課題を解決する研究等を推進する。	【4】	中期目標を達成し、優れた実績を上げている	<ul style="list-style-type: none"> 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。 また、特記事項を判断要素とし、総合的に判断した結果、「南九州・南西諸島域共創機構の設置」が優れた点として認められるなど「優れた実績」が認められる。
		<< 特記事項 >>	
		（優れた点） ○ 南九州・南西諸島域共創機構の設置 南九州・南西諸島域共創機構を新たに設置し、「南九州・南西諸島域の地域課題に応える研究成果の展開とそれを活用した社会実装による地方創生推進事業」を実施し、地域社会の課題解決につながる研究を推進している。その結果、島嶼、環境、食と健康、水、エネルギー等の研究、火山や地震	

	<p>等の防災研究に関する論文数は第2期中期目標期間平均値の273本から令和元年度は367本に、シンポジウム・研究会の開催数は13回から47回となり、第2期中期目標期間を上回る成果を上げている。また、南九州・南西諸島域との共同・受託研究数は、第2期中期目標期間平均値の78件から平成30年度で約2倍の152件となっている。(中期計画2-1-1-1)</p> <p>○ 県島嶼域の文理融合研究の推進</p> <p>鹿児島県島嶼域の文理融合の総合調査を行い、現地でのシンポジウムや研究会などを通して地域の課題解決に取り組みつつ、学内教員の執筆による一般向けのブックレットを年2冊出版し、さらに鹿児島県島嶼の多様な自然や文化を英語で紹介する書籍をインターネットで頒布している。また、環境問題の中でも近年注目されている生物多様性の保全のための研究として、森林の長期変動のモニタリング、植物の多様性、希少種アマミノクロウサギへの観光利用の影響等を実施し、シンポジウム7回、観察会21日間、講演会6回、一般向け図書の発行4点、論文(査読付き)136本、(査読無し)297本、学会発表220件、新聞への掲載155件等を通して社会へ研究成果を公表している。(中期計画2-1-1-1)</p> <p>(特色ある点)</p> <p>○ 地域特有の課題研究「エネルギー」の推進</p> <p>地域特有の課題研究「エネルギー」の分野において、食品廃棄物や下水汚泥等から発生するバイオガスから水素を製造する技術を開発している。また、「鹿児島の再生可能エネルギーを考える～地域の再生可能エネルギー利用への取り組み」というシンポジウムを開催し、その成果を『再生可能エネルギー～鹿児島での取り組み』として発刊している。(中期計画2-1-1-1)</p> <p>○ 地震火山地域防災センターの設置</p> <p>平成30年度に、地域防災教育研究センターと理工学研究科附属南西島弧地震火山観測所が統合して、地震火山地域防災センターを設置し、地震・火山災害をはじめとする様々な災害の防災研究等を推進している。その研究成果は、シンポジウム等を通して学内、学外に還元し、地域防災力の向上に貢献している。(中期計画2-1-1-1)</p>
--	---

小項目 2-1-2	判定		判断理由
【A10】国際水準の卓越した研究を推進する。	【4】	中期目標を達成し、優れた実績を上げている	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。 ・ また、特記事項を判断要素とし、総合的に判断した結果、「人獣共通感染症研究の推進」が優れた点として認められるなど「優れた実績」が認められる。
《特記事項》			
<p>(優れた点)</p> <p>○ 人獣共通感染症研究の推進 越境性動物疾病制御研究(TAD)センターは、口蹄疫、高病原性鳥インフルエンザの様な TAD 病原体あるいは重症熱性血小板減少症候群(SFTS)や狂犬病等の制御に向けた研究を実施している。具体的には、これら感染症を扱える高度封じ込め施設(ABSL3)等を用いて低分子化合物や特異抗体の治療薬への開発、動物モデルを用いた病原性解析と感染予防ワクチンの開発研究、疫学調査及び高感度ウイルス測定法の開発等を実施している。(中期計画 2-1-2-1)</p> <p>○ 難治性がん治療研究の推進 平成 30 年度に医歯学総合研究科附属南九州先端医療開発センターを設置し、難治性がん治療研究を実施している。具体的には、がんへの遺伝子・ウイルス治療技術を独自開発し、第一弾医薬 Surv. m-CRA-1 は ICT 準拠(世界基準)の非臨床開発に成功し、骨軟部腫瘍で First-In-Human(世界初投与)医師主導治験を実施・終了している。さらに Surv. m-CRA-1 の実用化を目指した次相治験の計画や難治性の膵がんへの医師主導治験へと研究を発展させており、第二弾 Surv. m-CRA-2 の非臨床開発を AMED 事業で進めている。(中期計画 2-1-2-1)</p> <p>(特色ある点)</p> <p>○ ヒトレトロウイルス学共同研究センターの設置 大学間のネットワーク化に向けての取組として、鹿児島大学難治ウイルス病態制御研究センターと熊本大学エイズ学研</p>			

	<p>究センターの再編・統合によりヒトレトロウイルス学共同研究センターを設置している。HTLV-1 感染による成人 T 細胞白血病・リンパ腫細胞で出現する新たな遺伝子異常の発見、HIV-1 潜伏感染細胞におけるウイルスの再活性化に関わる新たな分子機構の解明、B 型肝炎ウイルス (HBV) の HBs 及び HBe 抗原産生を抑制する新規核酸誘導体の同定、企業との共同研究による 6 件の新規抗 HBV 剤の特許出願、重症熱性血小板減少症候群ウイルス (SFTSV) の増殖を抑える新規薬剤の同定、国際共同研究によるエボラウイルスの感染を強く阻害する新規化合物の同定等の実績がある。(中期計画 2-1-2-1)</p> <p>○ 天の川銀河研究の推進</p> <p>天の川銀河研究について、第 3 期中期目標期間の開始から平成 30 年度末までに、査読付きの一流国際学術論文誌への掲載 131 編(うち国際共著論文 89 編)、国際研究会での発表 93 件、競争的外部資金の獲得件数のべ 47 件、市民向けの講演会等 96 件、記者発表等 4 件、国際研究会の開催 5 件を実施している。また、平成 31 年 1 月には理工学研究科附属天の川銀河研究センターを設置している。(中期計画 2-1-2-1)</p>	
小項目 2-1-3	判定	判断理由
【A11】研究者情報管理システムを整備し、研究成果を広く社会に還元する。	【3】	<p>中期目標を達成している</p> <ul style="list-style-type: none"> 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。
<p>《特記事項》</p>		
<p>(特色ある点)</p> <p>○ 事業化推進活動の進展</p> <p>九州・大学発ベンチャー振興会議による「九州・大学発ベンチャー振興シーズ育成資金：研究シーズの事業性の検証の支援のための資金 (ギャップ資金)」や事業化支援プロジェクト、大学発ベンチャー支援による事業化推進活動において、JST の A-STEP 機能検証フェーズに 4 年間で 47 件申請し、10 件の採択を得ている。また、研究シーズ集 (冊子) は、これまで平成 30 年版と令和 2 年版を発行している。(中期計画 2-1-3-1)</p> <p>● 知的財産権の保有ライセンス契約件数の増加</p> <p>特許マップの活用や知財セミナー開催等の啓発活動によ</p>		

	り、知的財産権の保有ライセンス契約件数は、目標の平成27年比1.2倍を大きく上回る2.05倍（令和4年3月時点）を達成している。これにより、事業化を促進し、研究成果の地域企業等への導出促進と外部資金獲得に大きく貢献している。（中期計画2-1-3-1）
--	---

（2）研究実施体制等に関する目標（中項目2-2）

<p>【評価結果】 中期目標を達成している</p> <p>（判断理由）「研究実施体制等に関する目標」に係る中期目標（小項目）が1項目であり、当該小項目が「中期目標を達成している」であることから、これらを総合的に判断した。</p>

小項目 2-2-1	判定	判断理由
<p>【A12】 国際水準の研究と地域貢献型の研究に対応する研究推進・支援体制を整備する。</p>	【3】	中期目標を達成している
	<p>・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。</p>	
	<p>《特記事項》</p> <p>（特色ある点）</p> <p>○ 異分野融合研究プロジェクト創出交流会の開催 学際的な研究プロジェクトを創出するための支援事業として、平成29年度より「異分野融合研究プロジェクト創出交流会」を企画・実施している。これまでに「生物模倣」、「防災」と「食品の機能性」、「バイオ」と「天然材料」をテーマに開催し、計4件の新規な学際的研究が学内研究者間で創出されている。（中期計画2-2-1-1）</p>	

Ⅲ 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標(大項目3)

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標を達成している

(判断理由) 「社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標」に係る中期目標(小項目)2項目のうち、2項目が「中期目標を達成している」であり、これらを総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

小項目 3-1-1	判定		判断理由
【A13】 地域を志向した教育・研究を推進することにより、地域社会の発展に貢献する。	【3】	中期目標を達成している	・ 中期計画の判定がおおむね「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。
	《特記事項》		
	(優れた点) ○ 地域食材のブランド化 医歯学総合研究科、農学部、水産学部、鹿児島女子短期大学の教員等で構成される鹿児島大学黒膳研究会において、黒豚、黒酢、黒米、紫芋などポリフェノールが豊富な鹿児島の「黒」の食材の機能性を解明し、その付加価値の向上を目指し、ブランド化を図っている。例えば、薩摩黒膳弁当は黒膳研究会が定める条件に則って、平成28年度から健康志向のご当地弁当として駅やスーパーマーケットで販売されている。(中期計画3-1-1-1) (特色ある点) ○ 自治体と連携した地域課題への貢献 地域課題解決に向けた具体的提案を行う課題設定会議を統括し、鹿児島県、鹿児島市等自治体との連携関係構築による地域課題の収集に努めている。令和元年度の課題設定会議では、鳥獣害に有効な防護対策技術、焼酎粕を原料とする機能性飼料・餌料の開発及び画像診断を活用した施設園芸の統合環境制御技術の開発の3件のプロジェクトに取り組み、様々な地域課題の解決に資する取組の展開を行っている。(中期計画3-1-1-1) ○ 地域人材育成プラットフォームの構築 全学横断型教育プログラム「地域人材育成プラットフォーム		

	<p>ム」の構築によるかごしまキャリア教育プログラムの開発・提供、社会人向け履修証明プログラムや地元企業からの受託研究の取組の充実などを実施している。なお、これらの取組は平成 29 年度、日本経済新聞社が全国 748 の国公立大学を対象に実施した大学の地域貢献度調査において総合ランキング 3 位、続く令和元年度同調査でも 10 位となった。(中期計画 3-1-1-1)</p> <p>○ 鹿児島環境学プロジェクトの成果</p> <p>鹿児島環境学プロジェクトとして、奄美大島と徳之島において世界自然遺産のアマミノクロウサギなどの希少種を捕食する野生化したネコ(ノネコ)の問題を多面的に取り上げた書籍を平成 30 年度末に出版している。(中期計画 3-1-1-2)</p> <p>※ 中期計画 3-1-1-3 については、鹿児島県における新規採用教員の占有率において、当該県における採用状況という外的環境要因等が大きく変化したため、このような状況を勘案して本小項目においては総合的に判断した。</p>	
<p>小項目 3-1-2</p>	<p>判定</p>	<p>判断理由</p>
<p>【A14】地域イノベーション創出を推進する。</p>	<p>【3】</p>	<p>中期目標を達成している</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。
<p>《特記事項》</p>		
<p>(特色ある点)</p> <p>○ 産学連携による知財契約数の増加</p> <p>大学の研究シーズとのマッチング、国の大型プロジェクト予算獲得に向けた連携を行う全県横断的な鹿児島県地域産業高度化産学官連携協議会を立ち上げ、令和元年度の知的財産権の保有ライセンス契約件数は、中期計画の平成 27 年度比 1.2 倍を上回る 1.53 倍を達成している。(中期計画 3-1-2-1)</p>		

IV その他の目標（大項目 4）

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標を達成している

（判断理由）「その他の目標」に係る中期目標（中項目）が1項目であり、当該中項目が「中期目標を達成している」であることから、これらを総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

（1）グローバル化に関する目標（中項目 4-1）

【評価結果】 中期目標を達成している

（判断理由）「グローバル化に関する目標」に係る中期目標（小項目）が1項目であり、当該小項目が「中期目標を達成している」であることから、これらを総合的に判断した。

小項目 4-1-1	判定		判断理由
【A15】グローバル化が進む社会の現状を理解し、国際的に活躍できる人材を育成するとともに、海外の学術機関等との教育・研究の交流を深め、国際貢献を推進する。	【3】	中期目標を達成している	・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。
	<<特記事項>> （特色ある点） ○ 大学院教育のグローバル化 大学院において、平成30年度に英語による授業を平成26年度の4倍、英語によるシラバスを14.5倍、講義資料を4.8倍に拡充している。また、英語で学位取得可能な6コース（共同獣医学研究科「獣医科学コース」「獣医専修コース」、人文社会科学研究科「地域開発教育コース」（博士前期課程）、農林水産学研究科「留学生プログラム」（修士課程）、医歯学総合研究科「グローバル医科学コース」（修士課程）「グローバル医歯学コース」（博士課程））を設け、農林水産学研究科においては、中国湖南農業大学とダブルディグリー・プログラムの設置を進めている。（中期計画4-1-1-2） ○ 学生の海外派遣の促進 平成30年度大学の世界展開力強化事業～COIL型教育を活		

	<p>用した米国等との大学間交流形成支援～(タイプA)に、米国から鹿児島、そしてアジアへー多極化時代の三極連携プログラムが採択されている。また、地域の企業・団体等の寄付金による、地域活性化に資するグローバル人材育成を目的とした「鹿大『進取の精神』支援基金」等の海外派遣支援事業の創設と JASSO 海外留学支援制度(協定校派遣)等の既存の支援制度への積極的な応募を実施し、海外派遣学生数は、令和2、3年度においては、新型コロナウイルス感染症の影響により、0名、21名となったものの、新型コロナウイルス感染症拡大前の令和元年度は、平成26年度比の1.3倍となる332名となっている。(中期計画 4-1-1-3)</p>
--	--

《判定結果一覧表》

中期目標(大項目)	判定	下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値 ※	(参考) 4年目終了時評価の判定
中期目標(中項目)			
中期目標(小項目)			
中期計画			
大項目1 教育に関する目標	【3】	達成している 3.23 うち現況分析結果加算点 0.10	【3】
中項目1-1 教育内容及び教育の成果等に関する目標	【3】	達成している 3.00	【3】
小項目1-1-1 【A1】「進取の精神」を発揮して課題の解決に取り組むことのできる多様な人材を育成する。	【3】	達成している 2.00	【3】
中期計画1-1-1-1 【B1】学士課程において、「進取の精神」を涵養するため、平成31年度までに柔軟な学年暦に基づく教育プログラムを整備するとともに、アクティブ・ラーニング型授業を全授業科目の50%まで拡充し、その成果を評価・検証する。	【2】	実施している	【2】
中期計画1-1-1-2 【B2】大学院課程において、専門性を活かしつつ地球的課題に取り組むことのできる人材を育成するために、課題解決型学修(PBL: Problem Based Learning)等、多様な学修機会を平成31年度までに整備してその成果を評価・検証する。	【2】	実施している	【2】
中期計画1-1-1-3 【B3】平成27年度創設の「熱帯水産学国際連携プログラム」を確実に実施し、平成29年度中にプログラム共通規則において定めた評価基準に基づいて評価・検証を行い、以降の連携大学を増やすなど、拡大・充実を図る。	【2】	実施している	【2】
小項目1-1-2 【A2】地(知)の拠点として、地域課題の解決に取り組むことのできる人材を育成する。	【3】	達成している 2.00	【3】
中期計画1-1-2-1(◆) 【B4】鹿児島の特徴(島嶼、火山等)を活用し、自治体等との連携に基づいて把握した地域課題やニーズを踏まえ、地域志向意識を醸成し、地域課題解決の基盤となる汎用的能力の育成を図る「地域志向一貫教育カリキュラム」を平成30年度までに整備するとともに、その成果を基礎として、地元就職率向上を目指す「地域キャリア教育プログラム」を平成31年度までに整備し、本プログラムの受講者を年間150人以上に増やす。これらの人材育成にあたっては、試験結果や共通ルーブリックに基づくレポートやプレゼンテーションの評価、ポートフォリオ等のデータを収集・分析してその成果を評価・検証する。	【2】	実施している	【2】
小項目1-1-3 【A3】教育目標の達成に向け、体系的カリキュラムを整備するとともに、学修成果を可視化し、教育内容・方法の改善サイクルを確立し、全学的な教育の内部質保証システムを整備する。	【3】	達成している 2.00	【3】
中期計画1-1-3-1 【B5】全学一体的に地域活性化の中核的拠点としての社会的役割を明確にしたアドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーを平成29年度までに再構築し、育成する能力が可視化されるようカリキュラムを見直し、カリキュラム・マップを完成させる。	【2】	実施している	【2】
中期計画1-1-3-2 【B6】学生が自主自律的に学修する力と汎用的能力を身に付けられるよう、平成31年度までに円滑な高大接続を図ったうえで、初年次教育、共通教育、専門教育を目標達成型の一貫したカリキュラムとして整備し、その成果を評価・検証する。	【2】	実施している	【2】
中期計画1-1-3-3 【B7】単位の実質化を図るため、ルーブリック等、適正な成績評価を行う仕組みを整備したうえで、学生が自身の学修状況・成果を可視化し、講義・演習では、単位制度の規定に則って授業時間の2倍の時間外学修が行えるよう、制度や環境の整備を行う。	【2】	実施している	【2】

鹿児島大学

中期目標(大項目)		判定	下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値 ※	(参考) 4年目終了時評価の判定
中期目標(中項目)				
中期目標(小項目)				
中期計画				
中期計画1-1-3-4 【B8】在学生や卒業生の要望、卒業生に対する社会からの評価を収集し、教育センター高等教育研究開発部及び担当教員を中心とした情報分析体制を平成30年度までに整備し、分析結果を大学全体で共有した上で具体的な教育改善策を実施する。		【2】	実施している	【2】
中項目1-2 教育の実施体制等に関する目標		【4】	上回る成果が得られている	【4】
小項目1-2-1 【A4】学術研究院制度や国際認証制度等を活用し、教育の質の向上を図る教育研究体制を整備する。		【4】	優れた実績を上げている	【4】
中期計画1-2-1-1(◆) 【B9】全教員を学長の下に一元管理するために創設した学術研究院制度に基づき、平成30年度までに教育センターを主担当とする教員を39人増員して教育センターを拡充し、平成27年3月に策定した「共通教育改革計画書」に基づく共通教育の実施体制を強化・充実する。さらに、教育センターの組織を見直し、「共通教育院(仮称)」を設置する。		【3】	優れた実績を上げている	【3】
中期計画1-2-1-2 【B10】教員の指導力向上を図るため、新任教員等に対する研修制度を立ち上げ、必要に応じて教育学部や附属学校、教育センター高等教育研究開発部から教員を派遣し、カリキュラム開発や指導法、教育相談等に関する研修会を全教員に向けて定期的に開催し、平成28年度までに全専任教員の75%以上の参加を達成する。		【2】	実施している	【2】
中期計画1-2-1-3 【B11】教員の教育改善への意欲を高め、教育の質向上を図るために、教育成果及び教員の教育業績を適正に評価する指標を平成31年度までに開発し、教員表彰制度等を導入する。		【2】	実施している	【2】
中期計画1-2-1-4(★)(◆) 【B12】欧米水準の獣医学教育を実施するために、共同獣医学課程において教育体制の整備を進めるとともに、北海道大学、帯広畜産大学及び山口大学と連携して教育カリキュラムの改編と教育コンテンツの充実を図り、平成32年度に欧州獣医学教育認証を取得する。		【3】	優れた実績を上げている	【3】
中期計画1-2-1-5(★) 【B13】教育関係共同利用拠点に認定されている2拠点について、附属練習船においては平成27年度に設置した教育部(教育士官)を活用し、また、高隈演習林については事業実施のための教職員を配置するなど、体制を整備・強化し、質の高い教育を提供するとともに、教育関係共同利用ネットワークの構築・調整等を通じて利用の効率化を進める。		【3】	優れた実績を上げている	【3】
中項目1-3 学生への支援に関する目標		【3】	達成している	【3】
小項目1-3-1 【A5】「進取の精神」を育むために学生支援を充実するとともに、多様な学生の状況に対応した総合的な支援体制を整備する。		【3】	達成している	【3】
中期計画1-3-1-1 【B14】正課及び正課外を問わず各分野で積極的に取り組む学生や、顕著な実績を上げた学生の支援の更なる充実を図るため、「進取の精神チャレンジプログラム」や学生表彰制度等の見直しを平成28年度中に行い、平成30年度までに新たな学生表彰制度を構築し、体系化する。		【2】	実施している	【2】
中期計画1-3-1-2 【B15】生活支援等に関する学生のニーズを学生生活実態調査、学長と学生との懇談会等を通して把握するとともに、平成30年度までに新たな学生の意向を把握するためのモニタリングシステムを構築するなど、生活、健康、ハラスメント等に関する相談・助言体制を拡充し、学生の自主自律的な学修と学生生活を支援する。		【2】	実施している	【2】

中期目標(大項目)		判定	下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値 ※	(参考)4年目終了時評価の判定	
中期目標(中項目)					
中期目標(小項目)					
中期計画					
中期計画1-3-1-3	【B16】障害学生支援センターを中心に、保健管理センター及び各学部との連携を強化するため、学生支援に関わる「修学支援コーディネーター(仮称)」を各学部配置し、「三者連携協議会(仮称)」を設置、障がいを抱えた学生や不応学生等、多様な学生の支援体制を平成30年度までに整備する。	【2】	実施している	【2】	
中期計画1-3-1-4	【B17】学生のボランティア活動を促進し、平成30年度までにボランティア登録者数1,000人体制を達成するとともに、学内ボランティア活動としてのピア・サポート制度等を拡充し、サポーターの増員を図りつつ、平成30年度までに全キャンパスにピア・サポーター体制を整備する。	【3】	優れた実績を上げている	【3】	
小項目1-3-2	【A6】学生の多様なキャリア選択のための支援を推進する。	【3】	達成している	2.00	【3】
中期計画1-3-2-1(◆)	【B18】全学的な就職支援事業を担う就職支援センターを中心に、県外の大手企業やグローバル企業、官公庁への就職支援に加え、県内企業限定の学内合同企業セミナーやインターンシップのマッチングフェア、県内企業の経営者や若手社員と学生の交流会を実施し、平成33年度までに年間延べ100社以上の県内企業・団体を学内に招くなど、県内への就職を促進するための取組を拡充する。	【2】	実施している	【2】	
中項目1-4	入学者選抜に関する目標	【2】	おおむね達成している	2.50	【2】
小項目1-4-1	【A7】中央教育審議会「高大接続答申」(平成26年12月22日)で指摘されている学力の3要素(①知識・技能、②思考力・判断力・表現力、③主体性・多様性・協働性)等を踏まえて、現在のアドミッション・ポリシーをさらに明確化し、能力・意欲・適性を多面的・総合的に評価する入学者選抜を実施する。	【2】	十分に達成しているとはいえない	1.50	【2】
中期計画1-4-1-1	【B19】学力の3要素等を踏まえ平成29年度までに現在のアドミッション・ポリシーをさらに明確化した上で、学力評価に加え、多面的・総合的評価による入学者選抜方法を平成31年度に整備し、平成33年度入学者選抜から実施する。	【2】	実施している	【2】	
中期計画1-4-1-2	【B20】奄美群島・種子島・屋久島等の離島地域の活性化に資するため、当該地域において鹿児島大学説明会等を開催し、当該地域の志願者数(平成27年度97人)を平成33年度入学者選抜までに1.3倍に拡充する。	【1】	十分に実施しているとはいえない	【1】	
小項目1-4-2	【A8】グローバル人材育成と多様な人材の確保に対応した入学者選抜を実施する。	【3】	達成している	2.00	【3】
中期計画1-4-2-1(★)(◆)	【B21】平成28年度入学者選抜から導入する国際バカロレア入試を拡充するとともに平成29年度入学者選抜に外部英語試験を導入する。平成33年度までに国際バカロレア入学者をおおむね10名とするとともに全学部の一般入試・推薦入試Ⅱ(全募集人員のおおむね95%)に外部英語試験を導入するなど、グローバル人材育成と多様な人材確保に対応した入学者選抜に取り組む。	【2】	実施している	【2】	
中期計画1-4-2-2	【B22】平成31年度入学者選抜から高校専攻科修了生の編入学制度を導入するとともに、平成33年度入学者選抜までに順次募集単位を拡大し入学後に進路決定が可能な制度を導入する。	【2】	実施している	【2】	

鹿児島大学

中期目標(大項目)	判定	下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値 ※	(参考) 4年目終了時評価の判定
中期目標(中項目)			
中期目標(小項目)			
中期計画			
大項目2 研究に関する目標	【3】	達成している うち現況分析結果加算点 0.00	【3】
中項目2-1 研究水準及び研究の成果等に関する目標	【4】	上回る成果が得られている	【4】
小項目2-1-1 【A9】地域特有の課題を解決する研究等を推進する。	【4】	優れた実績を上げている	【4】
中期計画2-1-1-1(★)(◆) 【B23】地域社会の課題解決につながる、島嶼、環境、食と健康、水、エネルギー等の研究、火山や地震等の防災研究、各分野の基盤研究を推進し、論文数、出版数、シンポジウム開催数、研究会等の開催実績等について、第2期中期目標期間と比較して第3期中にそれを上回るようにする。	【3】	優れた実績を上げている	【3】
小項目2-1-2 【A10】国際水準の卓越した研究を推進する。	【4】	優れた実績を上げている	【4】
中期計画2-1-2-1(★)(◆) 【B24】国際水準の卓越した研究として、先進的感染制御(難治性ウイルス疾患、人獣共通感染症等)、生物多様性、先進的実験動物モデル(ミニブタ等)、天の川銀河、難治性がん等の研究を推進する。また、先進的感染制御研究の共同利用・共同研究拠点化を目指して国内外の研究機関との共同研究の増加等に取り組む。これらの研究については、インパクトファクターの高い学会誌等への論文掲載数、競争的外部資金の獲得状況、共同研究や国際共著論文数、マスコミ等での成果の公表実績等について、第2期中期目標期間と比較して第3期中にそれを上回るようにする。	【3】	優れた実績を上げている	【3】
小項目2-1-3 【A11】研究者情報管理システムを整備し、研究成果を広く社会に還元する。	【3】	達成している	【3】
中期計画2-1-3-1 【B25】機関リポジトリ、研究者総覧及び研究シーズ集を充実させて、教育研究活動により創造された成果を社会に広く公開し、共同研究・受託研究を推進する。また、知財セミナー等の啓発活動を充実し、保有する特許情報を効果的に発信するなど、ライセンス活動を強化することにより、知的財産権の保有ライセンス等契約数を、平成33年度までに平成27年度と比較して1.2倍に拡充するなど、事業化を促進し、研究成果を社会へ還元する。	【3】	優れた実績を上げている	【2】
中項目2-2 研究実施体制等に関する目標	【3】	達成している	【3】
小項目2-2-1 【A12】国際水準の研究と地域貢献型の研究に対応する研究推進・支援体制を整備する。	【3】	達成している	【3】
中期計画2-2-1-1 【B26】研究担当理事、学長補佐、URA(University Research Administrator)職員等から構成されるURA組織を活用して、学内の研究シーズの分析や評価を行い、新しく強みや特色となる研究分野の発掘、ピア・レビュー等による科研費や外部資金申請書の作成支援を行うなど、研究推進・支援を強化する。	【2】	実施している	【2】

中期目標(大項目)	判定	下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値 ※	(参考) 4年目終了時評価の判定	
中期目標(中項目)				
中期目標(小項目)				
中期計画				
大項目3 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標	【3】	達成している	3.00	【3】
	なし	—	—	なし
小項目3-1-1 【A13】地域を志向した教育・研究を推進することにより、地域社会の発展に貢献する。	【3】	達成している	2.00	【3】
中期計画3-1-1-1(★)(◆) 【B27】「社会連携機構(仮称)」を中心に、全学として地域の防災、医療、観光、エネルギー、農林畜産業、水産業等の課題解決を図り、その活動成果を本学の教育に活かすとともに、自治体・企業との交流や共同・受託研究等を通じて地域社会に還元する。	【3】	優れた実績を上げている		【3】
中期計画3-1-1-2(★) 【B28】かごしまルネッサンスアカデミー等の社会人教育に資する教育プログラムを整備・拡充するとともに、鹿児島環境学部の研究成果や奄美群島拠点の活用等により、生涯学習の支援体制を充実する。	【2】	実施している		【2】
中期計画3-1-1-3 【B29】離島・へき地を多く抱える鹿児島県の学校教育に資するため、教員養成においては、鹿児島県新規採用教員の鹿児島大学占有率(小学校50%以上、中学校60%以上)及び大学院修了者の教員就職率(専門職課程80%以上、修士課程60%以上)の確保を目指し、複数免許を取得させ地域の課題にも対応できる実践的なカリキュラムへ再編する。また、教員研修においては、県内小中学校教員の複数免許取得者の割合を50%以上とすることを旨とし、教員免許法認定講習を拡充する。更に、第3期中期目標期間中に、新たな教育課題に対応するためのカリキュラムの見直しを行うとともに、附属学校園を通して地域に貢献する取り組みを行う。	【1】	十分に実施しているとはいえない		【1】
小項目3-1-2 【A14】地域イノベーション創出を推進する。	【3】	達成している	2.00	【3】
中期計画3-1-2-1 【B30】「社会連携機構(仮称)」を中心に、食品・バイオ分野等の地域産業と大学との共同研究等を通して地域産業の創出及び育成を推進する。	【2】	実施している		【2】
大項目4 その他の目標	【3】	達成している	3.00	【3】
中項目4-1 グローバル化に関する目標	【3】	達成している	3.00	【3】
小項目4-1-1 【A15】グローバル化が進む社会の現状を理解し、国際的に活躍できる人材を育成するとともに、海外の学術機関等との教育・研究の交流を深め、国際貢献を推進する。	【3】	達成している	2.20	【3】
中期計画4-1-1-1(★)(◆) 【B31】グローバル化が進む社会で異なる地域や文化に対して理解ある人材を育成するために、意欲的な学生に対して授業時間外に外国語活用能力を高めるための学修の場として、ネイティブや異文化経験が豊かな教員等が運営に携わる「外国語サロン(仮称)」を平成30年度までに開設するなど、異文化理解に関する学修機会を拡充する。	【2】	実施している		【2】
中期計画4-1-1-2 【B32】理系大学院課程において、シラバス及び教員が作成する講義資料の英語化、柔軟な学年暦の整備等を進め、国際的通用性を向上させる。また、学部・大学院の課程において、外国語(英語)による授業科目を、平成33年度までに平成26年度と比較して1.5倍に拡充する。	【2】	実施している		【2】

鹿児島大学

中期目標(大項目)	判定	下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値 ※	(参考) 4年目終了時評価の判定
中期目標(中項目)			
中期目標(小項目)			
中期計画			
中期計画4-1-1-3(★)(◆)(*) 【B33】グローバル社会を牽引する人材を育成するため、平成28年度に「グローバルセンター(仮称)」を設置し、海外研修、海外インターンシップ、派遣留学、ジョイント・プログラム、学内における留学生との協働教育等により、大学の国際開放度を高め、平成33年度までに海外へ派遣する日本人学生の数を平成26年度実績の1.2倍に増やす。	【2】	実施している	【3】
中期計画4-1-1-4(★)(◆) 【B34】混住型学生寮の充実、協働学修担当教員の配置、入試情報等の大学広報の改善等、外国人留学生の受入れ支援体制を整備し、日本語・日本文化教育をはじめ留学生の多様なニーズに応える教育カリキュラムを質的・量的に拡充することで、平成33年度までに外国人留学生の数を平成26年度実績の1.2倍に増やす。	【3】	優れた実績を上げている	【3】
中期計画4-1-1-5(*) 【B35】海外の学術機関等への教員の派遣や研究者交流を通じて国際共同研究を推進するなど、国際社会への貢献を図るとともに、教職員を対象とした国際的な研修企画を充実させ、平成33年度までに教職員の派遣数を平成26年度実績の1.4倍に増やす。	【2】	実施している	【2】

※ 中期計画に表示されている記号が示す内容は、それぞれ以下のとおり。
 (★): 「個性の伸長に向けた取組」に特に関連する中期計画(「法人の特徴」参照)
 (◆): 文部科学省国立大学法人評価委員会に承認された「戦略的かつ意欲的な目標・計画」
 (*): 新型コロナウイルス感染症による影響を特に考慮して分析・判定した中期計画

※ 「下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値」のうち、大項目「教育」「研究」の数値については、中項目の判定に使用した数値をそのまま大項目ごとに平均して算出し、その上で4年目終了時に実施した学部・研究科等の現況分析結果による加算・減算を行っている。

【教育】 達成状況評価

現況分析: 「教育」

$$\left(\begin{array}{c} \text{当該法人における} \\ \text{大項目「教育に関する目標」} \\ \text{の中項目の平均値} \end{array} \right) + \left\{ \left(\begin{array}{c} \text{当該法人における} \\ \text{(I 教育活動の状況)、} \\ \text{(II 教育成果の状況)} \\ \text{の全判定結果の平均値} \end{array} \right) - 2^{\text{注1}} \right\} \times \text{係数 } 0.5^{\text{注2}}$$

【研究】 達成状況評価

現況分析: 「研究」

$$\left(\begin{array}{c} \text{当該法人における} \\ \text{大項目「研究に関する目標」} \\ \text{の中項目の平均値} \end{array} \right) + \left\{ \left(\begin{array}{c} \text{当該法人における} \\ \text{(I 研究活動の状況)、} \\ \text{(II 研究成果の状況)} \\ \text{の全判定結果の平均値} \end{array} \right) - 2^{\text{注1}} \right\} \times \text{係数 } 0.5^{\text{注2}}$$

注1 現況分析は4段階判定となっており、【2】判定(相応の質にある)が基準となる判定のため、現況分析の教育または研究の全判定結果の平均値が2を上回る場合は加算、下回る場合は減算となる。

注2 現況分析結果の加算・減算に当たっては、達成状況の評価結果であることを考慮し、係数「0.5」を設定する。
 なお、加算・減算後の数値は小数点第3位を切り捨て処理しているため、現況分析結果加算点と教育または研究に関する大項目における判定の平均値の合算値が一致しないことがある。